

網走市地域公共交通活性化協議会 平成22年3月16日設置



概要

網走市は、人口の減少や少子高齢化の進展とともに自家用車に依存した生活の定着により、バス利用者が減少し市の財政負担も大きくなってきている状況にあるが、高齢者等を中心に公共交通への依存度は高まる傾向にあり、住民ニーズに対応した効率的な公共交通体系の確立が必要となっている。このため、運行経費及び市の財政負担の軽減を実現した持続可能な公共交通の提供を目指し、公共交通の全体像やスクールバス・患者送迎バスの効率的活用、デマンド型交通の導入可能性等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線（網走駅、呼人駅）
- ・JR釧網本線（網走駅、桂台駅、鱒浦駅、藻琴駅、北浜駅）
- ・網走バス(株)（市内6路線、郊外路線5路線）
- ・網走観光交通バス(株)（地域間1路線）
- ・スクールバス（8路線）患者送迎バス（5路線）

地域公共交通の課題

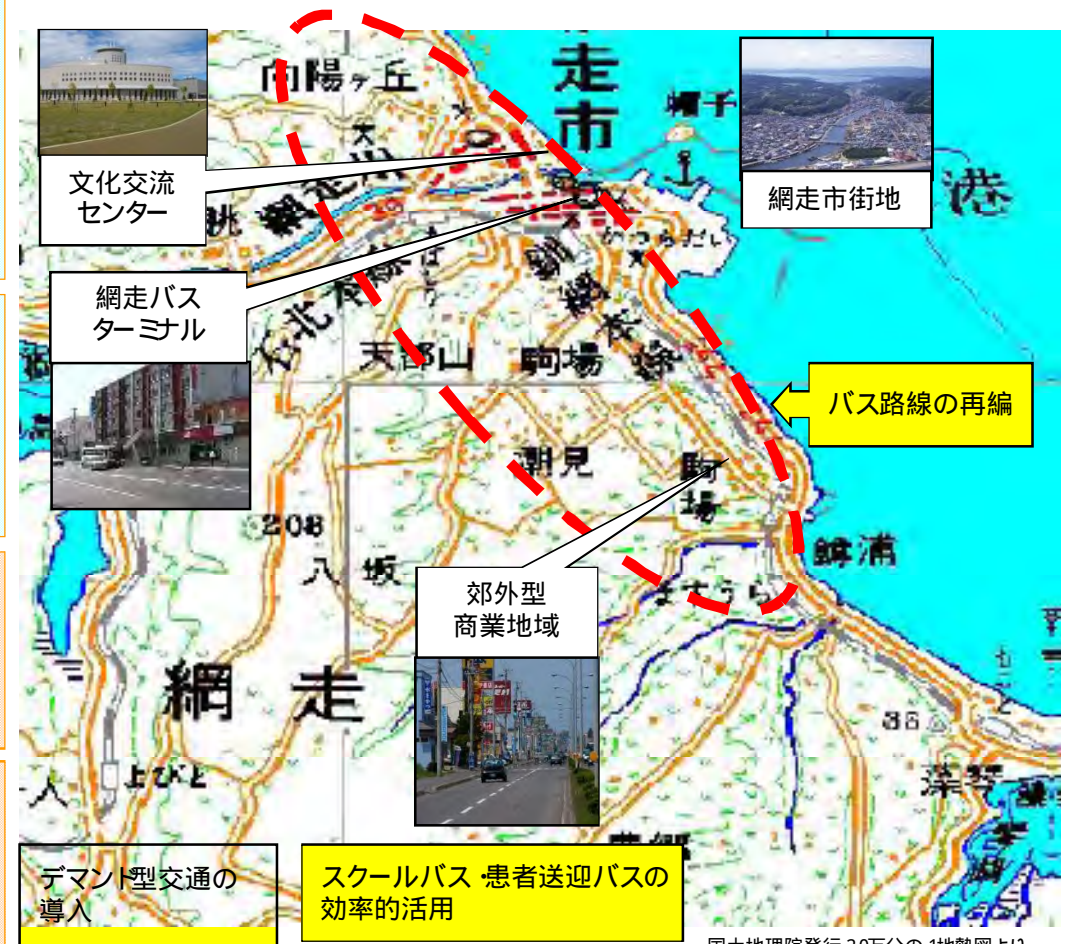
- ・高齢者等の生活交通の確保
- ・マイカーへの依存度が高く、路線バスの利用が低調
- ・路線バスの運行の効率化、スクールバス等の有効活用
- ・交通不便地域・空白地域の存在

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査（アンケート調査）
- ・需要予想における収支バランスの分析

策定する地域公共交通総合連携計画の構想（予定）

- ・バス路線の再編
- ・スクールバス、患者送迎バスの効率的活用
- ・デマンド型交通の導入



国土地理院発行20万分の1地勢図より

網走市地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

協議会開催状況

3回開催

分科会等開催状況

幹事会 : 3回開催

開催状況は平成22年度中のもの(開催予定を含む)

主な調査の実施内容

現況交通実態調査

- 各種統計資料により人口、世帯数、交通概況及び都市構造に係る情報整理を実施 (H22.9月～12月)
- 市内交通路線の実態、住民移動状況等の把握を目的とした交通事業者ヒアリング調査を実施 (H22.9月～12月)
- 市内路線バス3路線の利用実態把握を目的とした乗降調査を実施 (H22.10.13)

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

- 市内全域から抽出した世帯主2,000名を対象に、市内の公共交通ニーズの把握を目的としたアンケート調査を実施 (H22.10.1～10.31 回収率:32%)

その他の調査

- 大型商業施設3箇所、医療施設2箇所を対象に、市民の日常生活における移動実態把握を目的としたヒアリング調査の実施 (H22.10月～12月) 及び市内公共交通の問題・課題等を把握するため、「地域生活路線バス友の会」との意見交換会を開催 (H22.12.5)
- 交通空白地域住民の移動実態やニーズを把握するため、5地区において住民意見交換会を開催 (H22.11月～12月)

予定している主な連携計画の内容

市内バス路線の再編(実施主体:網走市、網走バス(株)等、実施時期:H23～)

- 公共交通運営の健全化を図るため、市民の外出状況による需要構造と利用者の意見を参考に、運行形態の効率化や利便性の向上に対応する路線の統合・再編を実施

コミュニティバス、乗合タクシー等の導入(実施主体:網走市、網走バス(株)、網走ハイヤー(株)等、実施時期:H23～)

- 公共交通空白地域や不便地域における住民の移動需要に応えるため、地域の状況やニーズに応じてコミュニティバスやデマント型乗合タクシーを実証運行を経て導入

バス待合い環境の改善(実施主体:網走中央商店街振興組合、大型商業施設等、実施時期:H23～)

- 中心市街地の活性化と連携した公共交通の促進を図るため、商店街内にある市民交流施設の機能・利便性を活用し、市内バス路線などの公共交通運行情報の提供により、バス利用者の快適な待合い環境の改善と、市民・観光客の交流促進を図る

自己評価のポイント

利用実態調査、アンケート調査により必要な調査を行うとともに、法定協議会において幹事会や住民意見交換会を開催するなど合意形成を図っている。

二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。

- 市内バス路線の再編に当たっては、利用者ニーズ調査等の結果を十分に分析の上、更に具体的な方向性について検討されたい。
- コミュニティバスやデマント型乗合タクシーの導入等に当たっては、既存の路線バスとの役割分担や乗継ぎの円滑化にも十分留意しつつ、更に具体的なサービス内容について検討されたい。